

令和6年
5月22日
(水)

第2回「(仮称) 泉南市認知症条例」 制定に係る検討委員会を開催しました



「(仮称) 泉南市認知症条例」
検討委員会事務局だより第2号
発行 泉南市長寿社会推進課
泉南市認知症地域支援推進員

第2回では、認知症当事者1名、家族2名を含む16名の委員に条例の中で大切にしたいキーワードを持ち寄って頂き、各々の想いを共有しました。言葉の背景や思いを大切に、文章にする作業を行っていきます。

また、今後の条例検討の方向性として、市民や市内在勤の人に「認知症の有無に関わらず、支え合うために必要なこと、やりたいこと」について聞き、その声をもとに策定することとなりました。3月から5月の3か月間は、主に認知症当事者と医療介護従事者572件の声を頂きました。今後は児童や生徒などの子ども、医療介護分野以外で働く人たちにご協力を求めながら進めていきます。

声

～お寄せいただいた声や委員会で挙がった声を紹介します～

各委員の「条例の中で大切にしたいキーワード」(一部抜粋)

■意識や考え方、理念

- ・当事者の目線
- ・正しい知識
- ・自分で(主体性)
- ・意識改革
- ・他人事ではなく身近なこと

■地域で暮らすためのサポート、認知機能低下の予防

- ・連携
- ・活躍
- ・役割
- ・希望
- ・社会参加
- ・意思決定支援
- ・否定しない
- ・働ける環境づくり
- ・笑いたい(顔で、身体で、心で)
- ・コーディネート
- ・能力を発揮し、元気に活動できる場所
- ・個別性
- ・安心して外出できる
- ・自分らしく生活する
- ・やさしい
- ・刺激のある生活で進行を遅らせる
- ・まちづくり
- ・施設のレスパイト利用のしやすさ
- ・家族支援
- ・当事者が考え方や生き方を伝える(本人・家族発信)

■人と人とのつながり・出会い

- ・交流の場
- ・学び合い
- ・伴走、寄添い
- ・繋がり続ける
- ・共に支え合う
- ・思いやり
- ・心ある声かけ、笑顔
- ・幼児からの正しい理解
- ・気かけあう(関係性)
- ・寛容
- ・全世代
- ・孤独を防ぎ地域や自治会で守る仕組み

■専門職の充実

- ・専門職の資質向上
- ・人員の充実
- ・単身者向け施設の整備
- ・公的支援外の充実
- ・施設と病院の連携強化
- ・健診等での早期発見
- ・もの忘れ外来を気軽に受診できる
- ・診断後に制度や手続きがすぐわかる場所、仕組み



←
キーワードの
分類作業中

〔各委員の意見〕

- ・条例を見た時にまちづくりに一緒に取り組もうと思ってもらえる文言も必要だと思う。
- ・条例制定に向けた検討の過程、理念や考え方を市民に伝えていくことが大切である。
- ・前回から、子どもに関する話題が出ていて、それが条例に含まれると、全世代で考えたり一緒に取り組んだりする機会が増えると考えられる。
- ・当事者の声に気付かされることがたくさんある。
本人の言葉を軸にまとめていけると良いのではないかな。



*…コラム2

(仮称) 泉南市認知症条例が浸透するために

副委員長 中島民恵子氏からのメッセージ



これまでの泉南市の積み重ねと今後の展望が、声として出てきていると思います。これを基に、条例の内容がいかにかかりやすく伝わるか、という所にこだわっていきたいです。

地域資源や色々な関係性の目に見えない資本が繋がり、積み上がっていくと地域の中の健康寿命が延びたり、暮らしやすい地域になる等が研究結果として示されてきています。当事者と一緒に過ごしやすい環境を作ることで、地域の結びつきを支える仕組みが強くなり、最終的には全体が良くなるので、色々な立場の方の声を条例に繋げると、とても良いと思います。

認知症の有無に関わらず、また世代問わず、今までの取組みが地域の中で循環していき、市民や働く人の暮らしに浸透していくよう、言葉として発信できることを願っています。

